



令和7年度 境北中学校区 小中連携研修

8月6日(水)に境北中学校区 小中連携研修を行いました。各校(采女小・境北中)の校内研修の取り組みを紹介したあと、4つの分科会に分かれて情報共有を行いました。



【分科会】

テーマ	現状と課題	指導の方向性
学力向上	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力(読み書き・計算)と思考力の両方に課題がある。 学習に対する目的意識が低く、受け身の姿勢が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己決定の場の設定: 子供たちが「自分で決める」場面を増やすことが、学習への前向きな姿勢を育む。 授業: 課題設定において、子供たちが選択できる場面を作る。 宿題: 一律の課題だけでなく、子供が自分で内容を選べる形式を取り入れる。 学びの意義の実感: 総合的な学習の時間を活用し、各教科で学んだことを実生活や社会と結びつけ、学ぶ意義を実感させる。
生徒指導・教育相談	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣や規律が十分に身につけていない。 校則など、学校のルールに対する当事者意識が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続的な情報共有: 教員間の定期的な情報交換の場を設け、一貫した指導につなげる。 個別の支援計画の活用: 「個別の指導計画」を基に、一人ひとりの特性に応じた関わりを小中で連携して行う。 当事者意識の醸成: 校則の見直しなどに子供たちを参加させ、自分たちの問題として捉えさせる。
安全・保健	<ul style="list-style-type: none"> 県内では不審者侵入事案も発生しているので、危機管理意識の向上が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な対策の徹底: 門の施錠管理、来校者への声かけ、保護者証の着用など、具体的なルールを徹底し、学校全体の安全意識を高める。 地域との連携: 防災や交通安全について、小中で共通の取り組みを行い、地域全体の安全意識を向上させる。
特別支援	<ul style="list-style-type: none"> 通常学級と協力学級(支援学級)との連携が重要。 	<ul style="list-style-type: none"> 一貫した支援体制の構築: 「個別の教育支援計画」や指導要録を活用し、保護者や関係機関と連携しながら、子供の将来を見据えた一貫性のある支援を行う。 インクルーシブ教育の推進: 学校は共生社会の縮図であるという認識のもと、全ての子供たちが尊重される環境づくりを目指す。



【指導講評(伊勢崎市教育委員会 関根指導主事様より)】

本日の研修は、義務教育9年間を見通した子供たちの学びを深めるため、現状と課題を共有し、次の実践へ繋げる有意義な時間でした。小中の連携は子供たちの成長に不可欠であり、今後もこの貴重な機会を継続していくことが重要です。本日の成果を全教職員で共有し、「小中で同じ子供を育てる」という共通認識のもと、今後も連携を深めていくことを期待します。



引き続き、境北中学校区の目指す子供像の実現に向けて、小中学校の教育課程の連携を一層充実させていきたいと思います。